



おがさわら 議会だより

第 104 号

平成 24 年 6 月 2 日発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



渡辺防衛副大臣への陳情・挨拶

平成 24 年第 1 回村議会定例会

第 1 回定例会（議案審議）	2
一般質問	4
予算特別委員会	8
委員会報告	10
議会の動き・編集後記	12

第1回小笠原村議会定例会
平成24年3月8日～23日

【消防団条例の一部改正】

どこを変えたの？



消防団員が火災や搜索等で出動した際の費用弁償（日当）について、3時間を超える場合、1時間につき1000円を加算することにしました。

【村税条例の一部改正】

どこを変えたの？



国の法律改正に伴う、村税の条例改正です。震災による控除の特例などについて、条文を改正しました。

【介護保険条例の一部改正】

どこを変えたの？



国の法律改正に伴い、平成24～26年までの保険料率を改定しました。

【給水条例の一部改正】

どこを変えたの？



文言の整理をし、給水区域に父島に北袋沢地区、母島に評議平地区を書き加えました。

【財政調整基金設置条例の一部改正】

【減債基金条例の一部改正】

【公共施設等整備基金条例の一部改正】

【役場庁舎建設基金条例の一部改正】

【災害対策基金条例の一部改正】

【靈園基金条例の一部改正】

【観光振興基金条例の一部改正】

【簡易水道事業基金条例の一部改正】

どこを変えたの？



基金の名前などを修正し、文言を整理しました。

すべて、原案通り可決されました。

※分かりやすくお伝えするため、正式名称とは違う表記をしているところがあります。ご了承ください。

平成24年

第1回 小笠原 村議会 定例会



條例

【非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正】

どこを変えたの？



専門委員を新たに新設し、報酬額を月45万円以内に定めました。

【職員の給与に関する条例の一部改正】

どこを変えたの？



一部の手当を月額から日額にするなどの改正を行いました。

【特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金条例（新設）】

【情報通信基盤整備基金条例（新設）】

【ふるさと寄附基金条例（新設）】

何が決まったの？



それぞれの事業の経費を積み立てて基金とするための決まりを条例で定めました。

その他の議決

(すべて賛成の議決をしました)

小笠原村地域福祉センターの指定管理者の指定
指定管理者：社会福祉法人小笠原村社会福祉協議会

奥村運動場の指定管理者の指定
指定管理者：社会福祉法人小笠原村社会福祉協議会

ロース記念館の指定管理者の指定

指定管理者：小笠原母島観光協会

小笠原村父島辺地及び母島辺地に係る公共施設の総合整備計画（平成 19 年度～平成 23 年度変更）

小笠原村父島辺地及び母島辺地に係る公共施設の総合整備計画（平成 20 年度～平成 24 年度）

東京都市町村議會議員公務災害補償等組合を組織する地方公共団体の数の増加及び東京都市町村議會議員公務災害補償等組合規約

組織構成変更に伴う一部変更

東京都島嶼町村一部事務組合規約

組合住所の変更

東京都後期高齢者広域連合規約

広域連合協議会においての規約変更に伴う変更

第 32 回オリンピック競技大会及び第 16 回パラリンピック競技大会の東京誘致に関する決議議員の派遣
5 月に開催される議員研修ほかに議員を派遣することを決めました。

平成 23 年度予算

【一般会計補正予算（第 5 号）】

【国民健康保険特別会計補正予算（第 4 号）】

【簡易水道事業特別会計補正予算（第 4 号）】

【宅地造成事業特別会計補正予算（第 2 号）】

どこを変えたの？

決算見込みによる減額補正など、おもに年度末に向けた予算の変更をしました。

平成 24 年度予算

新年度（平成 24 年度）予算は、予算特別委員会に付託して詳しく審議しました。

← 詳しくは 8P へ

同意

固定資産評価審査委員の選任に同意しました。

小高常義 氏 菊池聰彦 氏
金子 隆 氏

佐々木 幸美 議長
出張報告



2月19日	山口那津男参議院議員、松原 仁国土交通副大臣ほかへ陳情・挨拶
2月20日	平井たくや衆議院議員、宮腰光寛衆議院議員、二階俊博衆議院議員ほかへ陳情・挨拶
2月21日	金子恭之衆議院議員ほかへ陳情・挨拶
2月22日	全国離島振興協議会、島嶼町村会、島嶼町村議会議長会合同会議出席及び平成 24 年度離島振興関係国家予算獲得運動
2月23日	都町村議會議長会の役員会及び臨時会出席
2月24日	東京都町村会 90 周年記念講演出席
2月25日	島嶼町村議會議長会定期総会出席
2月26日	第 82 回小笠原諸島振興開発審議会出席
2月27日	島嶼振興公社運営委員会、東京都町村議會議長会役員会及び定期総会出席
2月28日	小笠原海運株式会社と新造船建造に関する意見交換
2月29日	渡辺防衛副大臣へお礼・挨拶（議員 7 名同行）
3月1日	第三管区海上保安本部、横浜海上保安部を表敬訪問（議員 7 名同行）
3月2日	離島振興法改正・延長実現総決起大会、実現要望運動

村民の声を村政に問う!!

一般質問

3月定例会

第1回定例会は、7名の議員から17件の一般質問がありました。



片股議員 入り口がわかりにくいという観光客が多い。大きな標識や矢印等工夫が必要ではないか。また駐車場はどこにくくどこにとめてよいかもわからない実情である。対策はないのか。

産業観光課長 ビジターセンターの標識は都道入り口の緑地帯とお祭り広場側にはあるが歩行者からはとらえにくのが現状。支庁で工夫をするということで返事待ち。駐車場は現場確認を支庁担当者とを行い検討するということになった。

アオウミ亀の産卵時期における砂浜の対応について

片股議員 5~8月の産卵を妨げないために海岸清掃や障害物の撤去を早めに行つてはどうか。また産卵時期のカメ対応を村民や観光客に知らせる必要はないのか。

産業観光課長 清掃や撤去は現在行っていないが大村海岸等では集落に

建設水道課長 平成21年7月成立の「海岸漂着物処理推進法」により責任者である国や都に海ごみの処理責任がある。政

行かない、事故が起きないなど様々な工夫をしている。カメのトラブルは海洋センターや母島フアングラブで適切な措置をすることを小笠原ルールブックや村民だよりで広報している。また自生ルールも観光協会により定められている。

片股議員 とびうお桟橋の奥辺はいつもごみがたまっている。今までどのように処理していたのか。また今後の方向性を伺いたい。

副村長 高齢化率の高まりにより現役・働き世代の現象は懸念されるが地域高齢者の実情に合った柔軟なサービスの提供に努め、時代のニーズに応えられる職場体制をつくり職員の育成に力を注いでいきたい。

ビジターセンターの案内板と駐車場について

片股 敬昌 議員



財政の健全化と高齢者が地方で安心して暮らせる配慮を

府には財政措置義務、村には必要に応じ協力する義務がある。都是処理計画検討に着手したが昨年の大震災で策定作業は延期となっている。現在はボランティアの方々の協力で清掃が行われている。

地場産業の振興について

鯰江溝議員



鯰江議員 第一次産業である農業・漁業は伊豆七島の中でも上位の業績があり良好。第三次産業は観光立島を目指し自然遺産登録後、来島者が急増し活気にあふれている。そこで第二次産業の経営について伺いたい。製造業者や製パン業者は頑張っているが人口的にも起業に至っていない。特に

小笠原ラム・リキュール株式会社においては1,200万円の長期借入金を損失利益として決算している状況。経営改善の考えはあるのか。

母島支所長

運営状況は芳しくないのが現状。

平成4年の販売開始以降限られた設備、職員体制で販売、小瓶化、はかり売り等を、一昨年は洋菓子メーカーの材料として採用された海外への輸出と様々に行ってきたが、経営の好転までは至っていない。今後の予定としてラム酒の商品化を

いきたい。

鯰江議員 現在村・JA・商工会が株主となっているが抜本的経営改革として第三セクター方式の経営母体を変更し民間経営に移行する考えはないか。

村長

経営改善のため経費の削減等努めてきたが小幅な改善にしかならなかつた。設立25年は改革を考える時期であろうかとも考へる。

いきたい。

進めていく。遺産登録後内地からの注文も増えているので新商品の売上げ増に努力していただきたい。

若者支援について

一木重夫議員

鯰江議員 当村は20歳までの人口が全体の20%を示し、平均年齢も39歳台。全国平均よりも6歳程若く将来に多いに希望がもてる地域である。これから巣立つ若者への支援として現在の状況を伺いたい。

教育課長 平成11年度より奨学金貸付を実施。3年以上住所があり、所得制限なし、月2万5,000円を6ヶ月分15万円を年二回交付。償還方法は一年据置十年間。条件によっては償還免除もある。今まで32件、約2,500万円。不納欠損は出でていない。

村長 一定の成績主義の導入は、モチベーションの底上げにつながる期待がある。これからも実施するようやつていただきたい。

副村長 表彰の導入は現在永年勤続があるが都、国の中を参考にしながら検討していく。勤いた者には昇給幅を大きくする。勤勉手当では来年度より、勤勉の労に報いるための給与を支給したい。

産業観光課長 ①太陽光活用のバスは自然遺産の島にとつては理想であるが一般車に比べまだまだ先駆的な取組み。この事業に向けては村のエネルギー・ビジョンの見直し、台数、バス事業のあり方の検討が必要。事例となる青森県七戸町や国・都の補助で

一木議員 ①高い評価を得ていた地質・地形で世界ジオパークを目指してはどうか。②首都大学東京の小笠原研究施設に常勤の研究者を配置するよう村として要望できないか。調査研究は観光振興と環境保全に貢献する。

産業観光課長 ①遺産登録と違い、地域主体となる取組みがあるので詳細を調べ観光面の有効性も考えジオパークを目指すかどうか検討していくと考えている。

電気バスを運行する羽村市を参考にして総合的に検討していきたい。

村長 ②時代が求めており。方向性は、よくわかっているつもりなので、お時間をいただきたい。

②大規模な太陽光発電所を村に導入すること

一木議員 ①電気を重ねて環境保全について



電気バスを運行する羽村市を参考にして総合的に検討していきたい。

②時代が求めており。方向性は、よくわかっているつもりなので、お時間をいただきたい。

②大規模な太陽光発電所を村に導入すること

稻垣 勇 議員



も小笠原海運に働きかけ
ていきたい。

シロアリ対策について

稻垣議員 昨年6月に
母島集落内にイエシロ
アリが確認された。そ
の時の状況と対応、外
来樹木の対策による影
響、今後の対策を伺い
たい。

稻垣議員 小笠原海運
はドック中、共勝丸を
利用して物資や郵便物
を輸送しているが定員が
少なく村民には大きな障
害となっている。観光船
をチャーターできないの
か。着岸の可否、村と旅
行会社の提携などどのよ
うに考えるか。

建設水道部長 平成10
年長浜トンネル周囲で
確認されて以来、生息
数は減少してきたが生
存力の強さ、地形、範
囲等で完全抑制には至
らない。村の対策とし
て年に3回ペテランの
防除士と入念に山林を
歩き調査、除去。また
6月にシロアリ対策速
報を作成し掲示板等で
周知している。更なる
検証と具体的な対策が
必要であると考えてい
ます。

稻垣議員 固有種の絶
滅防除対策はあるのか、
また家屋の安全性は。
防除対策の村の奨励金
はどの位利用されてき
たのかを伺いたい。

建設水道課長 固有種
駆除対策を効率的効果
的に連携してできるよ
うに調整会議でも意見
を集めている。

母島支所長 木造建築
の家屋が多い母島では
シロアリ会議の開催、
対策団来島時に情報提
供の依頼、樹木伐採事
業者への事後モニタリ
ングの徹底をしている。

村長 観光船は二見港に
着岸できないためはしけ
による上陸になる。物資
輸送は対応できないが人
の移動は可能かと考えら
れる。大型船はタグボー
トのアシストがなければ
離着岸を自力ではできな
い。代替船の調達は今後
も確認され増殖も

口アリ対策連絡調整会
議を行っている。昨年12月にシ
ル策定を目指している。

あるので駆除、伐採事
業者の責任において影
響を調査、対策を行っ
ていている。昨年4回の会
議を通じ情報共有、意
見交換、調整を継続的
に行い、共通マニュアル
策定を目指している。

震災に伴うガレキ処理に ついて

高橋議員 一日も早い復
旧、復興にはガレキの処
理が最優先されなければ
ならないが本島は地理的
にまた焼却の処理施設は
ない。この形態は一般的
に小規模で協力することは
できない状況にある。そ
こで全国の自治体のケー
ス、復興によせる思いを
伺いたい。

村長 なかなか進まない
ガレキの処理。受け入れ
自治体の障害事由として、
処理できる施設がないが
伺いたい。



産業観光課長 対外的
な施策として最重要であ
り関係団体との協力、工
コツーリズムの振興が大
きな柱となっている。東
京諸島観光連盟に業務
委託をし服務規程を設
けている。村から仕様書
を出しその実施に向け觀
光事業を行う。予算は約
3,300万円。メディ
アタイアップ事業は村の
直接事業だったが局に委
託。局から相談を受け内
容を把握し判断の意見を
言い最終的には局の判断
に任せている。少ない人
数の中で費用協力、取材
打合せ等各担当を決め業
務を進めている。

高橋議員 今年度の目標
は地域の観光業者の意見
を反映できたか。

産業観光課長 ツアーデ
スクから引き継いだ旅行
会社への説明会、村営の
イベントはじめ従来どお
りの事業も改めて検証し
改善に向け取り組んでい
る。来年度は村と局の打
合せを行い両観光協会、
小笠原海運、ナショナル
ランド等と連絡会議を開
き情報交換をしながら実
施体制を相談していきた
いと考える。

高橋 研史 議員

足の小笠原村観光局の概
要と役割、村の観光振興
施策においての重要性を
伺いたい。

小笠原村観光局の運用状
況について

高橋議員 平成23年度発
行

高橋議員 村の補助団体
である観光協会、木工
ルウォッキング協会、商

工会等は年度終了時に監
査があるが委託事業はどう
いう形になるのか。

産業観光課長 委託事業
費を12カ月、月額で支出。
月次報告を取り仕様書に
沿った事業が行われたか
どうかを確認して委託料
を毎月継続的に払う。最
終的に実績報告として
一年分をまとめて報告す
る。この形態は一般補助
団体の監査と同じ作業と
考える。

工事等は年度終了時に監
査があるが委託事業はどう
いう形になるのか。

杉田 一男 議員



分譲地について

早い時期に村民の意見を聞き、どんな支援が必要か、どのような支援ができるかを一步進んで検討し確実な動きが出てくることを期待している。

杉田議員 政策の一つであつた分譲地 23 区画のうち、まだ 14 区画が残っている。自然遺産登録後、の今が分譲には良い機会だと考えるがどのように考えているか。

池田議員 自然遺産に登録された我が島の自然を将来にわたり保全するには当然だが、村民の定住促進、扇浦第 2 集落の充実といふ目的に事業を進めてきたがなかなか難しい。すでに購入済みの方もいるので価格を下げるとか島外の人も購入者対象にするとか条件を大きく変更してまで売り急ぐべきではないと考える。

世界自然遺産登録後の公共工事の進め方について

村長 村民の生活の安心安全の確保、経済の活性化等の施策には基幹道路の整備は不可欠と考える。父島の防災機能を兼ねた都道、母島の都道北進線の改修工事の状況を伺いたい。

池田議員 自然保護の立場、事業者の立場各々尊重しない。必要な公共工事は自然保護の見通しで村民の安全や暮らしに支障が生じてはならない。必要な公共工事は自然保護の立場、事業者の立場各々尊重しない。

村長 三月三日に国有林の保全管理委員会開催。この会が工事等の決定をするため現況を話し協力を仰いでいる。

池田 望 議員



池田議員 今後の公共工事の進め方としてどうにかしていきたい。

総務課企画政策室副参事 国有林の利活用に関する内容説明や資料提出を更に保全管理委員会に行い事業推進を要請していきたい。また自然遺産登録前から実施する公共工事は関係法令や都が定めた環境配慮しながら進めている。今後も同様に関係機関と調整を図りながら進めていきたいと考えている。

所信表明について

杉田議員

行政として当然やるべき医療、教育、防災、航空路等がある。最重要目標である①航空路開設に向けた新たな取り組み、②防災計画の見直しの考え方を伺いたい。

また第一次産業の役割は非常に大きく、③遊休農地の再利用のあり方、④地産地消の取組みについて伺いたい。

村長

①現在、都行政部、離島港湾部、村とで情報交換会を設置。今まで同じ場での議論がなかったことを考えると、会を重ねていくことが着実な歩みにつながる。P-I 協議会での実務方の協議も徹

副村長

②新たに P-I 協議会を開設。今までの実務方の協議も徹

産業観光課長

③具体的な施策の確立

旧赤間ホテル跡について

杉田議員

進入路が 1.2m の出入口の確保は優先課題ではないのか。天災、人災の可能性もあり区画出入り口の確保は優先課題ではないのか。

村長

出入り口の確保は優先課題ではない。旧赤間ホテルの出入り口の確保は優先課題ではない。

副村長

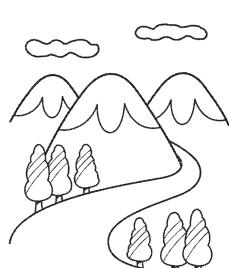
④地産地消の持続的な発展を実現するに

池田議員

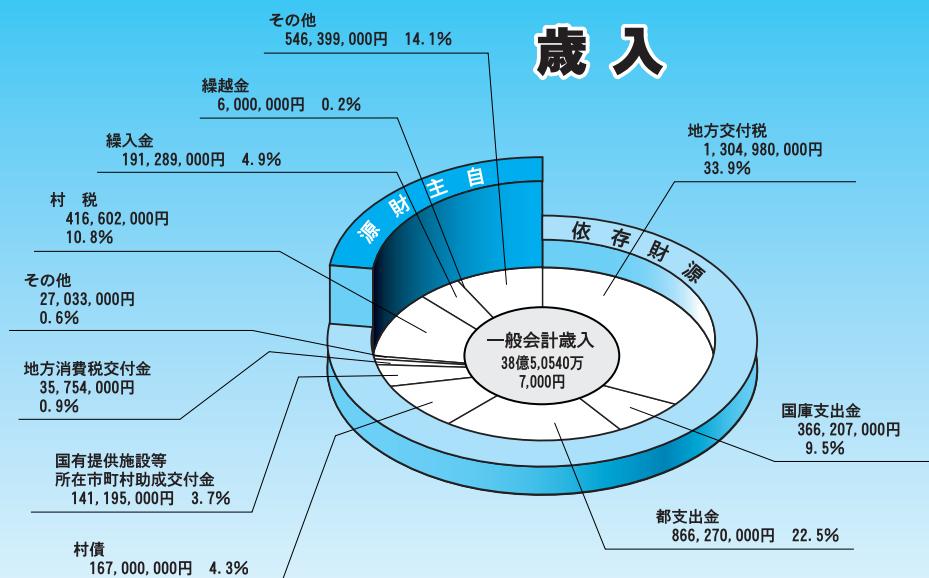
はかかる行政主導型で、國設置の森林生態系保護地域制度があり、その地域内で工事を行う場合、林野庁の保護区域保全管理委員会の承認が必要となる。北進用含めた地主とも今まで交渉を重ねてきたがなかなか見通しが立たない。今後も更なる交渉を続けていきたい。

池田議員

今回の工事の内容と滞った要因を



【平成24年度一般会計当初予算】



※一般会計 38億5040万7000円でスタート

平成24年度

予算特別委員会

委員長 稲垣 勇
副委員長 片股 敬昌

《主な質疑》

問 ◇歳 出 ◇
硫黄島遺骨収容作業は、最後の一柱まで収容するのは難しいのではないか。どの時点がけじめをつけるときか。

答 硫黄島基地の交付金が減っている。大変ありがたい交付金で、減額は大変なこと。減った部分をどう努力していくのか。
(池田委員)

問 これまで、国への予算要求活動の中で、小笠原の実情を陳情している。また、硫黄島の国防の役割や存在意義を伝えている。今後も、財源確保の努力をしていきたい。

答 扇浦分譲地は、返還があった際にも関わらず歳入予算を増額して計上しなくては、販売努力の意識がそれなのではないか。
(杉田委員)

問 人口が減ったわけではないのに、個人村民税を少なく計算出している。近年観光客が増えており、24年度の課税に影響すると考えられるが、その点は反映させていない。

答 旧島民の皆様の最後の一柱までという思いを私たちも受けとめ、一人でも多くご帰還できるよう努力をしていきたい。

答 母島は木造の方がが多い。シロアリ防蟻処理の奨励を進めていきたい。

問 母島の集落地でシロアリが発見されたのは非常に大変なこと。母島の皆さんに防蟻工事の広報をしていただきたい。

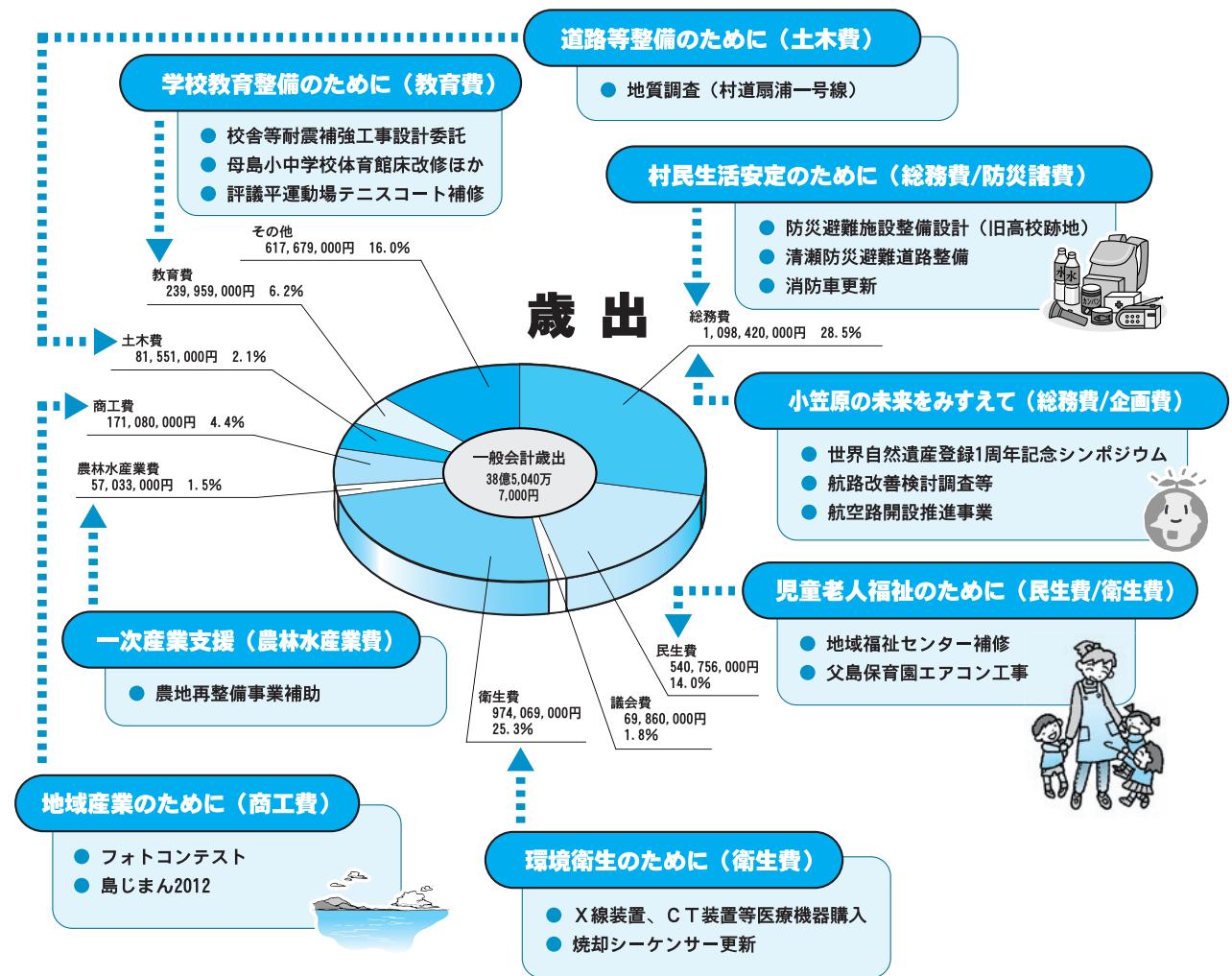
答 施設の改装、人員体制など、万全の体制をとっています。村民会館から独立した保育園を作ることは当然視野に入っていますが、振興法の流れの中で作業しなくてはならない。

問 母島保育園の建て替えをしないと、入園予定の児童の対応が難しいのではないか。
(佐々木議長)

答 事業を実施する際、説明が遅いと議会から指摘があつた。今回は当初予算で計上せず、議会に事業説明後、補正予算で対応したい。

答 新設した専門委員について、適材がないので新たに非常勤職員として採用することだが、今後の人材育成についてどう考えているのか。
(高橋委員)

答 適材がない形で組織改正を議論していきたい。



問 議会に投げかけ 否めない。議会に投げかけ

答 観光に携わる方が、この現状をきちつと分析していくことが肝要。

問
観光マーケティング調査で
満足度が落ちているが、村
長の感想を。

問 補食給食費は村の単費で300万円出している。選択制にして保護者から徴収すべきでは。この予算を出産費補助に充當して10万円上げてはどうか。
答 出産費補助は不足している金額ではない。保護者の意見を聞いて補食給食のあり方を考えていく。

答 戰跡は文化財としてなじまないとの判断をしている。

問 小曲の大砲を村の文化財に指定できないか。

答 検討課題としたい。
△木委員、

問 公務で出張する診療所医師のogaさわら丸は現在2等医師住宅も提供している中、1等にすべきでは。

答 提案を受けた費用の助成を
計上した。
一木委員

問 高齢者の肺炎球菌のワクチンの接種助成を提案しているが予算化したか。

【採決】

問 戸籍や住民基本台帳等を総合行政システムは年間42000万円の経費。伊豆諸島小笠原で一元化し、一部事務組合で運営してもらうことで経費削減できないのか。

問 住宅困窮者の住宅不足がある。村営住宅はどうか。
答 单刀直入にお答えするとな
かなか難しい。

意見 高齢化が進む中で村の財政も大変になつてくる。孤独死の課題も目が離せない。村長を中心にして頑張つて頂きたい。
（片股副委員長）

答 時代の背景を踏まえながら、医療の質と幅を広げていくのが大きな課題。
問 診療所の運営について不安がないか。将来の展望はどううか。

答 ても
りたい。
執行部と議会のお互いの権能を尊重しても、説明不足があれば各課長に指示していきたい。
（杉田委員）

硫黃島調査 特別委員会

答 殆どのご遺体はわから
ない。千鳥ヶ淵に納骨さ
せていただいている。名前がわ
かった場合にはご遺族におかえ
している。

小笠原空港開設 航路改善特別委員会

化懇談会でそれぞれの専門家の有識者の方々の意見を聞くことにより、航空路を進めるために役立つと思つてゐる。

う際に支障がでているのではな
いか。村民権はどのように割り
振られているのか。

「杉田委員」
梓は確保して
船客が増えた

平成24年3月9日開催

平和祈念公園管理事業
・硫黃島戦没者追悼式（都主
催）1月25日実施。旧島民墓
参（那三羅）3月3日実施。

・硫黄島慰靈巡拝（國主催）
（都主催）3月2日実施
12月14日 3月1日実施
・3月14日日米硫黃島戦没者
追悼顕彰式などの報告を受け
ました。

【南鳥島への行政視察について】
委員会の冒頭、南鳥島への行政視察について一本委員長が支援を頂いた防衛省、現地でご協力頂いた国交省と気象庁に謝意を表しました。

【Z-LP(日米再編)について】

【遺骨帰還について】

か。問 24年度の実施計画はどうになっているの

答 試掘調査を行い、発見できたら集中して行う。

また 滑走路西は8月下旬ごろから収容したい。

問 発見された遺骨は、身元が分からない方ばかりなのですが、身元が分かった方は靖国神社の方へ行くということもあるのか。

〈片股副委員長〉

鮭江委員が「南鳥島」一沖ノ鳥島の諸課題について所管する委員会をどこにするのか、提議しました。「南鳥島」の自衛隊基地に関してはこれまで通り硫黄島調査特別委員会で所管し、その他については総務委員会を中心と所管する事としました。

問 村議會で硫黃島視察を行つた際、隆起によつて、釜岩の港が上がつてしまつた。村の訪島事業の際、使えるのか心配だ。
（セイタクシキ）

答 世界遺産登録後、観光客が増えていることの対応策、また、航空路関連において、**問** 民生安定化懇談会はどのようなことを話し合ったのか。

平成24年3月9日開催

答 都の行政部港湾部との情報交換は、実務的な位置づけにおいて大変有意義であると思つてゐる。また、民生安定化へ

は、それぞれの委員が専門的な見地からの意見などが議題としてあがつた。只今議事録を作成中で、完成後はホームページで公開したい。

問　P-Iをいかにすすめる
公開したい。

答　世界遺産登録後、観光客が増えていることの対応策、また、航空路関連においては、それぞれの委員が専門的な見地からの意見などが議題とあってあがつた。只今議事録を作成中で、完成後はホームページページで問うようなことを話し合つたのか。

問 P-1をいかにすすめるか、24年度は一歩でも先に進めることが大事。村長の考えは。

問 観光客が増え、村民がおがさわら丸の切符を買っていきたい。
答 調整金の条件がそれだけだったと思っていない。
——木委員会

【航路に関する経過報告等】

問 民生安定は世界遺産よりも大事。世界遺産のパンフレットだけでなく航空路のパンフレットを早く作成して、航空路に取り組んでもらいたい。
答 出来るだけ早く作成し、全戸配布また、マスコミや観光所、国會議員の方にも配布したい。

いづらくなっている。村民権を増やしていただきたいという申し入れを行つてゐる。また、病気の方はトイレに近い部屋にして、ただくなどの配慮をしている。海運とも調査をしてみたい。

答 はじめ丸の乗船券は当団体客はすでに切符を持つていい現象がある。村民を含めた一般客がキャンセル待ちが生じているのが現状ではないのか。

問 母島への観光客は多くなったが、ほとんどが日帰り。はじめ丸が毎日往復すれば、宿泊のツアーが組みやすくなる。多便化をどう考えるか。

答 運航会社だけでなく、補助金を出している国や都とも相談しなくてはならない。はじめ丸の更新が迫ってきてることも考慮し、議論していきたい。

議会の動き

<3月>

- 1日 全員協議会
議会運営委員会
- 7日 全員協議会
- 8日 本会議（1日目）
総務委員会
硫黄島調査特別委員会
小笠原空港開設・航路改善特別委員会
本会議（2日目）
- 19日 小笠原中学校卒業式
- 20日 母島小中学校卒業式
- 21日 予算特別委員会
- 22日 予算特別委員会
- 23日 本会議（3日目）
- 27日 例月出納検査

<4月>

- 2日 辞令交付
- 3日 辞令交付
- 10日 母島小中学校入学式
小笠原小学校入学式
小笠原中学校入学式
小笠原高校入学式
- 26日 例月出納検査

<5月>

- 11日 都議長会役員会・臨時総会
都町村議会議員講演会
- 18～20日 下田黒船祭
- 21日 臨時議会

- 議会だよりは、紙面の都合上、文章や内容を割愛したり、要約をしたりして掲載しています。
- ぜひ、議会を傍聴してみてください。
- また、会議録のお問い合わせはこちらへどうぞ。

お問合せ先

小笠原村議会事務局

TEL 04998-2-3118 FAX 2-3208



次回の定例会は

6月中旬開会

の予定です



※村役場・福祉センター・
母島支所のテレビで議会
中継をご覧になれます。
ぜひご利用ください。

議員だより編集委員
高橋 一木 重夫 研史

小笠原村として初めて、南鳥島への行政視察が村議会の主導で実現できました。硫黄島調査特別委員会での長年に渡る政府への働きかけによって、ようやく実を結びました。昨今、沖ノ鳥島、尖閣諸島、竹島等の離島において、近隣諸国と領土を巡るトラブルが起きており、国境に接する離島の保全が、国民的な関心を呼んでいます。政府は国境離島である小笠原村の南鳥島と沖ノ鳥島の保全のために、法律を整備しました。その法律に基づいて、南鳥島では250億円、沖ノ鳥島は750億円もの巨費を投じて、平成27～28年度までに港を整備する予定です。このようなタイミングの中、村議会という住民の代表が、戦前暮らしていた村民の先輩達が眠る南鳥島に再び上陸し、村民としての新たな軌跡を感じています。

編集後記